

「さよなら原発ヒロシマの会」総会アピール

福島第一原発の原発震災から丸5年を迎えようとしている。

今なお事故は継続中であり、収束させる見込みも立たない状況にある。「汚染水」はコントロールされることなく流され続けている。今後、何十年、何百年この状況は続くであろうか。放射能汚染によって、家族は引き離され、被災地の生活と産業、地域の文化は奪いさられている。放射線被ばくによる健康被害、世代を超えた長期的影響を考えれば、事故から5年を経ても「復興」はまだ端緒的段階というべきである。

毎日多くの労働者が、放射線にさらされながら過酷な労働条件の中で原発や環境汚染と対峙し、事故の収束・廃炉、除染作業に奮闘している。

私たちはフクシマを忘れない、忘れてはならない。それは被害者の「命」と「生活」に寄り添うこと、被害者への補償はいうまでもなく、「事故は繰り返してはならない」とのフクシマの「思い」に真摯に向き合うことである。

これだけの惨事を起こしたにもかかわらず、その元凶である東京電力も、「国策」として原子力発電を推し進めてきた政府も、誰ひとりとして責任をとろうとしていない。それどころか、国民の大多数が原発推進に反対しているにもかかわらず、政府や電力会社は、原発重大事故が起こりうることを前提にしながらも「再稼働」を強引に進めようとしている。福島原発事故の原因の十分な解明も、事故の収束も、事故対策も進まず、何よりも被害者に対する救済が切り捨てられる中での凶行である。

このような状況の中で、インドへの原発輸出はまさに日本の核不拡散政策の大転換であり、世界規模での「核兵器はいかなる者の手にも絶対に許されない」との新秩序構築への努力を踏みにじるものである。これに対しては、日本国内はもとより世界中の市民から「福島原発事故の反省もなく、原子爆弾の被爆地が…」という強い怒りと抗議の声が大きくあがっている。

私たちは、次のことを重要な課題として広範な人たちに訴えていき、その実現を図るものである。

- 1、中国電力の島根原発2号機の「再稼働」をさせない取り組みを強める。
- 2、中国電力が計画している山口県上関原発の「計画白紙撤回」を求める活動を強める。
- 3、四国電力の伊方原発3号機をはじめ、原発の「再稼働」に反対する。
- 4、ヒロシマにいる者として、フクシマの放射線被ばく者への連帯を強める。
- 5、高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉を求めるとともに、核燃料サイクル政策に反対する。
- 6、4月から始まる「電力小売りの全面自由化」にとって、いかに原発が不必要で大きな負担であるかを訴えていく。
- 7、原発輸出に反対する。
- 8、来る参議院選挙では、原発反対議員を増やすための活動を行う。

今年にはチェルノブイリ原発事故から30年、フクシマから5年という節目の年である。

私たちは「ヒロシマ」で活動する団体として、「核と人類は共存できない」という原点に立ち、世界中が原発に頼らない再生可能エネルギー政策への転換を図るとともに、核兵器の廃絶をめざし、人類の生存とこの地球を守るために、多くの人たちと繋がりあい連帯しながら行動するものである。

2016年2月7日

チェルノブイリから30年、フクシマから5年

「さよなら原発ヒロシマの会」総会参加者一同